

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373400254		
法人名	特定非営利活動法人 犬山あんきにくらそう会		
事業所名	宅老所・グループホーム 今井あんきの家		
所在地	犬山市大字今井字畑中46番地の1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成24年1月12日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

里山の特性を活かし地域とのふれあいを大切にしています。一人一人の個性を大切に利用者の気持ちになって介護するよう努力しています。利用者に対する態度は自然で笑顔で接します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然にかこまれ、春には桜、秋には紅葉と四季を肌で感じる事が出来る。利用者、家族、スタッフまでが施設の近隣住人であり、まさに地域密着型サービスを具現化している事業所といえる。利用者個人個人のペースにあわせたサービスの提供を心がけている。観光スポットにも恵まれた犬山と言う土地柄を利用し、外出サービスにも積極的に取り組んでおり、またそこが馴染みの場所となっている。地域の消防団に若手の男性職員を入団させ防災活動に貢献している。入所したほとんどの利用者の状態が回復傾向に向かう優れた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に基づき「みんな仲良く助け合いゆっくりニコニコ」を心に刻み職員全員実践している	理念は見やすい場所に掲示されており、ケアがマンネリ化するのを防ぐためにも、職員に周知徹底している。また利用者及び家族にも理解されるケアを実践するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こども未来園・小学校・町内会など運動会に参加したりお祭り・クリスマス会などに招待したり交流が図られている	保育園や小学校との交流は毎年恒例の行事になっており、利用者にも地域の子供たちも楽しみの一つになっている。また若手の男性職員が消防団に入団することが地域防災に大きく貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の実習の場を提供したり小学生・中学生などの体験学習なども快く受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内とその近辺の民生委員・区長・老人会の方々・利用者さんの家族・市の職員を文字絵取り組んでいる内容を話し合っ意見を得ている。そのうえで職員の質の向上に努めている	ホームから積極的に現状を報告することによって、地域に対して協力をお願いする機会としている。今年は運営推進会議を活用してスプリンクラーの設置と寄付金の募集に成功している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは連絡を取り協力を仰ぎながら課題解決に取り組んでいる	市との連携において担当者を設置するのではなく、事業所全体で連携・対応している。市からの依頼で、受け入れ困難なケースを引き受けることもしばしばある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	災害時を考え施錠はしないことを徹底し「拘束とは・・・」の学習会を持ち拘束しない介護に取り組んでいる	毎年、勉強会を開催するとともに事故防止に最大限留意しながら拘束をしないケアを実施している。またやむを得ず身体拘束を行う場合は家族に了解を得るとともに家族が利用者に拘束着を着用させてもらうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修会を持ち言葉の虐待も含め最大の注意をスタッフ全員で図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで2人が成年後見人制度を利用されスムーズにグループホームでお世話できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者・管理者・事務員・看護師等からの説明を充分行い、利用者やご家族にNPO法人・今井あんきの家を知ってもらい契約をして頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議で意見を聞き運営会議や理事会にもつなげ運営意見に反映している	運営推進会議も確実に開催され、内容の充実した機関紙も発行されている。また家族が面会に来たときは必ず最近の現状を伝え、本人および家族の希望を聞き取りケアに反映させるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、運営会議、理事会、総会と運営についてはオープンにしている	何でも話しやすい雰囲気がつくられており、毎月開催される会議だけにとらわれることなく職員間での意見交換が積極的に行われている。職員から上げられた意見はスムーズに取り上げられる仕組みが用意されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置転換を行いました。あんきの家全体で利用者をみれるような体制をつくりました。平成21年度7月「労働組合」が結成されて、スタッフ自ら労働条件の改善の為に学習に取り掛かりました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設け個々に研修が受けられるよう計画実施している。ヘルパー資格取得に対して勤務を考慮し機会を確保できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会等の各種団体の会員となり研修や交流会への出席をする機会を設けている。看護学生やボランティア受け入れもしており自己の介護を振り返る機会も作られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族・ケアマネージャー・職員がよく話し合い本人の気持ちを大切にしながら慣れていただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは傾聴に心がけ要望に沿えるよう安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	宅老所よりグループホームへうつられた方はグループホームから宅老所へ昼間は出かけてもらったり必要に応じた支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は手伝っていただき必ず「ありがとうございました」と言葉かけしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会に招待したり、時には来家の際食事介助をお願いすることもあり、ともに利用者を大切にする気もつを持つようつとめている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とともに近所の友達が合いに見えたりいき慣れた美容院へ行くなど支援している	利用者およびスタッフのほとんどが施設の近隣住人であり、馴染みの関係継続につながっている。利用者の希望とスタッフの都合が合えば馴染みの場所への個別の外出支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	初めはお客様扱いされる利用者も1週間～1ヶ月位たつと家族のようになりささえあえる支援を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訳あって他施設や入院された利用者を職員は自ら進んで面会や見舞に行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向を聞き表情や行動で思いをくみ取ったり意志の疎通ができない人は家族と話し合い情報を把握している	担当制を取り入れず、職員全員が全利用者を把握できるような支援をし、日常生活の中から利用者個々の意向の把握に努めている。洋服は本人に選べるように援助している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際又は時と触れ聞いた生活歴を大切に介護に生かしながら暮らして頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜寝つかれない人は時には添い寝、起きてきた利用者とはお茶を飲み話をしたり、外出を希望する人は散歩やドライブに行ったりしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のスタッフ会議、必要に応じ話し合いの場を設けている	家族からの相談は臨機応変に対応し、介護計画へ反映している。身体状態に変化が生じた場合は看護師へ相談し、医師との連携の下、随時対応できる体制を整えている。日々の申し送りや記録を徹底し、職員全体での取り組み意識を高く持っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕二回の申し送りを丁寧に行い職員全員が共有して介護をしている。その都度見直しも含め話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	宅老所との交流はもちろん一番ふさわしいところで過ごして頂くよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	弘法様へお参りに出かけたり、散歩に行ったり近所のひとと話をしたり楽しんで暮らしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と必要に応じて受診をしている	本人家族の了承の下、かかりつけ医を事業所の協力医療機関へ移行し、定期的な往診や歯科、皮膚科等必要に応じ往診の体制を整えている。通院時、家族が同行できない場合等付き添いが必要な状況において職員が同行し、個別の対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	あんきの家は複数の看護師が務めている。光に相談できる仕組みができていますので安心して看護が受けられる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者は月2回協力医の往診を受けていただき緊急時や入院時には対応して頂くようにしている。また、医療に関する対応は看護師が中心となって行えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い書面でも本人にとって一番幸せな支援を心がけている	終末期について、本人家族の意向を把握し、事業所では看取りを受け入れ、看護師、職員と連携を図り体制を整えている。管理者は職員の不安を軽減するよう話を聞き対応したり、勉強会を実施し職員間で認識を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修を行い実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・地域の協力を得て火災土砂崩れ地震などの災害訓練をしている	消防所立ち合いの防災訓練を年二回実施し、近所住民も参加し地域との連携も深めている。職員二名が消防団に登録し、地域活動にも貢献している。備蓄品の整備やスプリンクラーの設置、事業所内の避難経路や避難場所の確保をし、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護の勉強会で話し合い利用者の気持ちになって声かけをしたさりげない支援をしている	地域に密着し、交流が盛んである為、日常会話での個人情報の保護に十分注意を払い、職員間で常に注意を呼びかけ配慮している。利用者の呼び名について、様子観察し職員で話し合い、利用者にとって心地よく気分を損ねないよう配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつ希望を聞いたり行きたい所など支援できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴散歩などその人のペースに合わせて本人の希望に沿えるよう職員全員で協力し話し合っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらう、お化粧をされた利用者には「きれいですよ」とエールを送っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に食べやすい様調理する。配膳食器洗いなど手伝ってもらい必ず感謝の気持ちを言葉で表すことを心がけている	個々の嗜好を把握して、刻みが必要な利用者には料理を見せてから刻む等、食事を楽しむ援助をしている。週一回利用者の希望を聞いて献立をたてている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が進まない時にはおやつを工夫したり特に夏は水分補給に心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた口腔ケアを毎食後に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所の時紙パンツの利用者も布パンツに変え動ける人はすべて昼間布パンツ使用。その人に合った排せつパターンを支援している	排泄チェック表から個々の排泄パターンを理解し、申し送りでの排泄状況の確認の下、排泄のしぐさやサインを察知し、随時対応している。紙パンツ使用の利用者への援助方針について、会議での話し合いを重ね、検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活と水分補給に努め、暑い時期は家の中の散歩など便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴時間の希望を受け止め健康状態を見ながら楽しんで入浴してもらえよう支援。拒否される方はタイミングを見ながら進めている	入浴は毎日実施し、個々の希望に添い時間を決めず対応している。拒否する利用者には、散歩したり気分転換できるような声掛けをするなどし、気持ちよく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かな場所で休みたい人、寂しくて人の声が聞こえるところで休みたい人など個々の気持ちを大切に休息の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と話し合いながら複数のチェックを行い支援。症状の変化も看護師と相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	宅老所で行われる活花・朱宇治・音楽療法などその人に合った楽しみに参加したりはりえ・塗り絵・歌を歌ったりして気分転換を図ったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々散歩(気候により配慮)日曜日はドライブ、春・秋は食事会など外出を楽しんでいる	天気が良ければ毎日散歩を実施、日曜日はドライブに出掛ける等土地柄を利用し馴染みのある観光地への外出もでき、外出支援が多様である。家族も希望時参加でき、家族との外出も実現できている。外出を通じ個々の体調変化への気づきにもつながり、健康管理に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金のことを理解できる方がみえないため所持したり使う事はされていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、電話をかけたいと言われるれたり手紙が書ける方もいません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誰でも来訪できる雰囲気があり昔ながらの建物で利用者には安息の場になっている。気候の良い時はベランダで過ごせるよう椅子を用意。花畑や田んぼなどゆったり過ごせるような雰囲気を大切にしている	居間ではソファが2ヶ所に配置されている他、一人で過ごせるようプライバシーが保てるスペースが窓辺にあり、皆が和やかに過ごせる環境を整えている。壁にはイベント時の写真や季節を取り入れた飾りがあり、生活感や季節感の配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを二つ置き気の合った人とおしゃべりを楽しんだり静かに過ごしたい時は離れたソファで過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンス・鏡台などを置き本人にとって居心地よく工夫をしている	使い慣れた家具や物、大切な仏壇を持ち込み、個人の生活習慣に配慮し、居心地よく生活できる空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でトイレに行く工夫や昔過ごした家に近い環境づくりなど工夫している		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2373400254
事業所名	宅老所グループホーム今井あんきの家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	① 毎年地域の小学校、保育園などとは行事や祭りを通じて交流を深めている。また若手の男性職員が消防団に入団することによって地域防災に大きく貢献している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 会議で施設から積極的に問題を提起することにより、地域および近隣住人への協力を呼びかける機会として活用している。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	① 市から依頼を受け、困難な事例を引き受けることもしばしばあり、地域の高齢者問題に貢献している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	② 苦情相談窓口を設けるだけでなく、家族の訪問があったときは必ず現状の報告と、利用者と家族の希望を聞き取りケアの改善に繋げている。 ③ 機関紙「花だより」「あんきだより」を継続して発行し、利用状況や運営状況を細かく伝えている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認

を行う。